

今年度、「学校経営計画」に基づいて行った取組において、成果および課題について以下のように報告いたします。

どの児童も、充実感・満足感が得られる学校

(1) 確かな学力の定着

主体的・対話的な深い学びの実現を図り、確かな学力を身に付けさせるとともに、児童が、「分かる!」「できる!」「楽しい!」をたくさん感じるような魅力ある授業を展開する。

【今年度の取組目標と方策】

- 学力調査、はちおうじっ子ミニマムの分析結果や、日々の授業の振り返りから児童の課題や指導の課題を明確にし、授業改善につなげる。
- 習熟度別少人数指導（算数）や教師の専門性を生かした教科担任制・交換授業などを実施し、基礎・基本の定着を図る。
- 学習用端末などのICT機器を効果的に活用した個別最適な学び、探究的な学習や体験活動を通じた協働的な学びを充実させる。
- 各学期末に行う計算・漢字オリンピックを、基礎基本の定着に活かす。

(2) 体力の向上・健康の保持増進

体育の授業、健康教育、保健教育を通して、心身の健康を保持増進する能力や方法を身に付けさせ、活力のある生活と豊かなスポーツライフの実現を図る。

【今年度の取組目標と方策】

- 体力調査の分析から本校児童の課題を明らかにし、授業を中心に改善を図る。
- 楽しくて夢中になれる授業、体の動かし方やうまくなるためのコツがわかる授業を工夫する。
- 学期ごとに行う体力向上の取組（長縄・持久走・短縄）をきっかけに、体力づくりや運動に親しむ態度を育てる。
- 外遊びやたてわり班遊び、全校集会などにおいて、様々な遊びや運動に触れる機会を積極的に設ける。
- 学年に応じ、簡単なけがの処置や、自身の健康を管理できる力を身に付けさせる。

(3) 特別支援教育の推進

個性や違いを理解した上で、どの子ども平等に教育を受けることができるための合理的配慮、安心して学んだり活動したりできる環境づくり、誰もが分かる指示や指導方法の工夫などを行う。個々の良さを認め合い、温かい人間関係づくりができる児童を育成する。

【今年度の取組目標と方策】

- 校内研修を通じて、特別支援に関する理解をより深めるとともに、保護者・関係機関との情報共有を密に行い、連携体制を整備する。
- 児童理解を深めるとともに、特別支援の視点から一人一人の特性を踏まえ、日々の授業において具体的な支援や工夫、改善を行う。
- ユニバーサルデザインを意識した教室環境や授業の進め方などを改めて全教職員で確認し、児童の誰もが快適に学べる環境を全校統一で整える。
- 特別支援教室（チャレンジ）における指導を参考にし、指導のスキルやコツを各学級での指導に生かす。

【成果と課題】

◇確かな学力の定着

- ・学力調査、はちおうじっ子ミニマムの分析結果を教職員間で共有。調査該当学年においては、明らかになった課題に向けてポイントを絞って指導を行った。
- ・各教員とも、授業づくり以上に授業後の振り返りに時間を取ることが習慣化され、反省点を次の授業に生かすようになった。
- ・教科担任制は、1人の教員が同じ授業を繰り返すことで、授業の質の向上につながった。
- ・「計算・漢字オリンピック」の結果分析から、1学期よりは2学期、3学期と学期を追うごとに計算や漢字の基礎基本の定着度が上がっている。学校全体としては、8割定着児童が80%をやや切るくらいの状況。来年度も「計算・漢字オリンピック」を実施し、基礎基本の更なる定着を図る。

◇体力の向上・健康の保持増進

- 体力調査に関しては大まかな傾向の分析に留まっている。次年度は細かい分析方法を考えたい。
- 体育の授業では、各担任が準備運動の段階で、いろいろな動きを取り入れるよう工夫した。OJT研修などで共有できるようにしていく。
- 運動委員会の企画で、休み時間に様々な遊びや運動に触れる機会を設けることができた。
- 保健指導をきっかけに、けがをした際に、自ら傷口を洗ってから保健室に来室する児童が増えた。

◇特別支援教育の推進

- 松木中学校、長池小学校と合同で行う特別支援研修会、本校単独の研修会において、実際の支援についてスキルやテクニックを教わり、即指導に生かしている。
- 特別支援教室（チャレンジ）の教員との連携が、昨年度以上に深まったことにより、個々の児童の見取りや、その子に合った支援の方法を明らかにしていくことができた。
- 学校評価保護者アンケートにおいて、学校が特別支援教育に取り組んでいることについて、なかなか肯定的な評価が得られない。来年度に向けて、まずは学校HPで、様々な取組を紹介していく計画を立てている。

どの児童にも、居場所がある安心・安全な学校

(1) 「人」を大切に作る心の醸成

教育活動全体を通して、人間尊重や生命尊重の精神を培うための教育を充実させる。自分を大切にするとともに、他の人を理解し思いやる心の育成を図り、誰もが楽しい学校生活を送れるよう、人権尊重の精神も培う。

【今年度の取組目標と方策】

- あらゆる教育活動を通して、あいさつや礼儀、ていねいな言葉の励行、相手の気持ちや立場を考える思いやりなどを身に付けさせる。
- 生命の尊さや、自他ともに命を守ることの重要性について、授業や日常生活を通して、全教職員で指導する。
- 「特別の教科 道徳」の授業に関しては、児童が問題意識をもち、主体的に考え、対話的な授業となるよう、道徳教育推進教師を中心に授業改善を図る。また、道徳授業地区公開講座の実施や学校公開などで道徳授業を公開することを通して、保護者や地域と連携して道徳教育を推進する。
- 「あいさつ」は、生活指導の重点目標の一つとして力を入れる。教職員が自ら範を示すほか、代表委員会が中心となっている主体的な取組を通して児童の意識を高める。
- 義務教育修了時の「豊かな生徒像」に向けて、小学校修了段階で身に付けておくべき人間性を小中一貫グループで共通理解し、各学年の発達段階に応じた人格形成を図る。

(2) いじめ防止・いじめ対応の強化

いじめは絶対に許さないという教職員の共通認識・指導のもと、児童が安心して楽しく通える学校を実現する。また、困ったときはいつでも誰にでも相談できる環境づくりに努める。

【今年度の取組目標と方策】

- 本校の「いじめ防止基本方針」のもと、いじめ対策委員会（木曜日：6校時）やアンケートなども活用し、いじめの未然防止や組織的対応、早期発見・早期解決を行うとともに、差別やいじめの根絶を図る。
- 児童の小さな変化も見逃さないための教職員の意識と感覚を高める。
- 「八王子市のいのちの大切さを共に考える日」の取組、いじめ防止のための授業、代表委員会を中心とした自治的な活動を通して、いじめを許さない心情と態度を育てる。
- 児童も保護者も、困ったときにはいつでも、どの教職員にでも相談できる雰囲気づくり、環境づくりに尽力する。「相談できる大人がいない」という児童を無くす。

(3) 登校困難な児童への対応・支援

登校困難な児童にとって、魅力ある学校・学級づくりに取り組む。居場所づくりや、児童どうしの絆づくりのための環境調整や人間関係の調整を行う。

【今年度の取組目標と方策】

- 児童に寄り添い、共感的理解と受容の姿勢をもち、子供の自己肯定感を高める。
- 誰一人取り残されない学びの保障に向けて、児童一人一人の教育ニーズに寄り添った支援を行う。
- 児童や保護者を孤立させないための支援体制づくりとして、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、医療、福祉機関等と連携し、組織的・計画的な支援を行う。
- 学級外に落ち着く場所を作り、登校支援コーディネーターを核とした支援体制を確立する。

(4) 安全・安心な環境づくり

すべての児童が安全に、安心して学校生活を送り、学びに向かい、夢や希望を実現していける環境づくりを行う。自らの命を自分で守ることができるよう、防災、事故や犯罪回避能力の育成にも力を入れる。

【今年度の取組目標と方策】

- 規則や秩序、節度を重んじた指導により、規範意識や基本的な生活習慣・学習規律を確立する。
- OSCによる全員面接（5年生）やQ-U（6年生）を活用し、学級内のより良い人間関係を育てる。
- 保健の授業や学級指導、外部講師による指導を通して、学校内外の危険予知やケガ防止についての意識を高める。特に、廊下の右側通行、静かな歩行については、生活指導の重点目標の一つとして力を入れる。
- 食物アレルギー事故を絶対に起こさないよう、保護者との密なやりとりと調理・提供時の細心の注意を払う。また、緊急時の対応について、全教職員が確実に把握できるよう研修を行う。

【成果と課題】

◇「人」を大切にする心の醸成

- ・すすんであいさつをすることについては、個人差が大きい。「あいさつ週間」の際には、学校だよりや学校HPで呼びかけるなどして、家庭内でも意識してもらうよう働きかける。
- ・「自分の命も友達の命も大切にすること」を、3年間年度はじめに繰り返し児童と約束してきた。命に危険が及ぶようなトラブルは今のところ起きてはいないが、命をないがしろにするような発言がされることがある。ていねいな言葉づかいとともに、引き続き生命尊重の指導には力を入れていく。
- ・道徳授業地区公開講座における意見交換会に多数の参加があった。講師の上手な誘導もあり、保護者がまさに「考えながら」「議論しながら」道徳教育について考える良い機会となった。

◇いじめ防止・いじめ対応の強化

- ・学校いじめ対策委員会は、年間計画に沿って内容の充実した会議の実施ができた。
- ・教職員が児童の変化やいじめの芽に対して敏感にキャッチし、気になる児童についてはていねいに話を聞き取ることで、いじめの未然防止や早期発見、組織的対応や早期解決に取り組めた。重大事態に発展するような事案が無かったことは成果である。

◇登校困難な児童への対応・支援

- ・学級以外に落ち着ける場所（別室）で、登校支援コーディネーターを核とした登校支援を行う体制や環境を整えることができた。
- ・担任と支援員が、登校困難な児童の状況、心理的状态などを密に共有し、適切な支援を行うことによって、少しずつ学級での活動に参加できるようになった児童が増えた。

◇安全・安心な環境づくり

- ・規範意識や基本的な生活習慣・学習規律の確立については、継続して指導していく。中でも廊下歩行については課題が多いため、来年度も生活指導の重点項目として掲げ、引き続き指導する。

保護者や地域に信頼され、協働しながらともに歩む学校

(1) 学校運営協議会と協働した学校運営

地域運営学校として学校・保護者・地域が一体となり、継続性を保ちながら、教育活動の改善や児童の健全育成に取り組む。また、地域学校協働本部を活用し、保護者・地域、時には企業などと連携した教育活動の充実を図る。

【今年度の取組目標と方策】

- 保護者や地域の声を学校運営に積極的に生かし、地域とともにある学校づくりや、課題解決に向けた取り組みを効果的に進める。
(学校評価保護者アンケートの回収率目標＝80%)
- 地域に開かれた、信頼される学校を目指して、教育活動を積極的に公開し、評価をもとに改善を図る。
- 学校運営協議会が中心となって、児童が参加できる地域行事や居場所を設け、地域に愛着や誇りをもつ子、地域の一員として積極的にかかわろうとする子を育てる。

(2) 積極的な情報発信・情報収集

学校で行っていること、学校が求めていることを保護者や地域に発信する。地域に積極的にかかわることで、保護者や地域住民と交流し、協力や信頼を得る。

【今年度の取組目標と方策】

- ホームページを活用した情報発信の頻度を上げる。宿泊学習や校外学習はもちろんのこと、普段の学校生活や地域連携に関する取組の様子もホームページに掲載していく。
- 学校行事や学校公開のみならず、普段から授業や学校の様子をいつでも見られることを、年度当初の保護者会や学校だよりなどで繰り返し案内する。
- 地域の施設や公園等に対する学習活動の協力依頼、保護者に対する付き添いボランティアの依頼などを、地域学校協働活動推進員を通して積極的に行う。
- まつぎ会と協力して、青少対主催の行事、地域行事などへの参加を呼びかける。教職員も可能な限り参加して、保護者や地域住民と触れ合う中で、学校に対する願いや要望などの情報収集に努める。
- 三校（松木中・長池小・松木小）および、三校合同学校運営協議会主催の「浄瑠璃祭り」を通して地域の信頼関係や一体感を築くとともに、児童が地域を理解し、世代を超えた学びが得られるよう働きかける。

(3) 教職員の信頼確保

教職員が互いに学びあい専門性を高めあう「同僚性」を重視し、社会人として、教育公務員としての常識や自覚、高い資質・能力を身に付ける。

【今年度の取組目標と方策】

- 学級・学年内に、認め合い、助け合い、高め合う温かい支持的風土を育てるために、同学年の担任同士が協働する。
- 落ち着きやまとまりのある学級・学年集団になるよう、教職員の連携を図る。また、教職員が個々の力を発揮しつつ、報告・連絡・相談を徹底し、学校のチーム力の向上を図る。
- 服務事故防止に向けて、研修を通して一人一人が倫理観を磨き、社会常識を身に付ける。
- 働き方改革を推進し、児童に向き合う時間や教材研究の時間を確保する。
- 教職員間に、ハラスメントや確執を生まない職場づくりを目指す。

【成果と課題】

◇学校運営協議会と協働した学校運営

- ・学校評価保護者アンケートの回収率を80%程度まで引き上げたかったが、20%止まりとなった。ぜひとも来年度前期学校評価アンケートでは、まず50%まで引き上げ、保護者の意見や要望を取り入れながら学校経営の改善に取り組みたい。
- ・子供の居場所「ぬくぬく（駄菓子屋さん）」には子供たちがたくさん参加した。学校は会議と重なりなかなか参加できなかったが、学校運営協議会や地域の方の協力のおかげで、子供たちにとって放課後の楽しい居場所になった。

◇積極的な情報発信・情報収集

- ・今年度は、各学年や分掌から、行事や学習活動の様子を学校HPに積極的に公開することができた。来年度も、今年度以上に教育活動を積極的に公開し、保護者や地域の皆様に、学校に対する理解を深めていただけるよう努力したい。
- ・学習活動のボランティアや、まつぎ会・青少対の行事などへの保護者の参加が少なくなってきた。学校からのアナウンスを積極的に行うと同時に、地域行事や浄瑠璃祭りなどには教職員の参加も可能な限り促し、保護者や地域との交流の場となるようにしたい。

◇教職員の信頼確保

- ・学年の担任同士が共通理解を図り、足並みをそろえた指導ができた。担任全員で学年を指導し、成長を見守る体制が取れた。
- ・教育公務員として信用失墜するような服務事故は無かった。来年度も引き続き研修等を通して、倫理観や社会常識を身に付けさせていく。
- ・時間外勤務は全体的に減ってきているものの、行事前や学期末などにはどうしても遅くまで残ったり休日出勤したりする姿が散見される。学級減で学校規模が小さくなり、教職員数も減少する中で、教育活動の質を担保しつつ、同時に業務の精選を図っていく必要がある。